

## 議長定例記者会見 会見録

日時：令和6年2月5日 10時30分～

場所：全員協議会室

### 1 発表事項

令和5年度第2回みえ現場de県議会「若者の人口流出について」  
～若者に選ばれ続ける三重県をめざして～を開催します

### 2 質疑項目

令和5年度第2回みえ現場de県議会について  
能登半島地震への義援金について

### 1 発表事項

令和5年度第2回みえ現場de県議会「若者の人口流出について」～若者に選ばれ続ける三重県をめざして～を開催します

(議長)おはようございます。ただ今から2月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。それでは発表事項に入らせていただきます。本日は発表事項として1点、令和5年度第2回みえ現場de県議会「若者の人口流出について」の開催について発表させていただきます。具体的な内容につきましては、広聴広報会議の座長であります杉本副議長から説明させていただきます。

(副議長)それでは、令和5年度第2回みえ現場de県議会の開催について、ご説明します。お手元の資料、発表事項1をご覧ください。まず、「1 開催趣旨」でございます。三重県の人口は転出超過が続いています。また、三重県全体の転出者数の過半数を若年層が占めており、若者の人口流出は県政の重要課題となっております。そこで今回は、進学や就職の際に他県への転出者が多い現状や課題について、当事者である若者と三重県議会議員が意見交換をします。若者の視点と県議会議員の視点を交わらせて、より良い三重県の未来を創造するための具体的な施策を検討し、今後の議会での議論に反映させていきたいと考えております。日時は2月15日、18時から20時。場所は川越町にあります川越町中央公民館大研修室です。参加者は、三重県出身の20歳から37歳の方、10人です。県内の大学生・大学院生や川越町などで働いている社会人の方に参加いただく予定です。三重県議会からは、正副議長、広聴広報会議の委員、そして今回のテーマに関わりのある、政策企画雇用経済観光常任委員会委員長の計12人が参加いたします。内容としましては、二つのグループに

分かれての意見交換を行い、その後、全体交流を行います。傍聴は事前申し込み不要で、どなたでも傍聴いただけます。報道機関の皆さまにおかれましては、事前の情報発信や当日の取材等につきまして、どうぞよろしくお願いいたします。私からの説明は以上です。

(議長) 転出超過がすごいですね。転出超過は最新版ですと全体で5,721名。うち15歳から29歳が4,595人で、なんと80%。これはさすがにちょっといかがなものかなと心配しております。発表は以上でございます。よろしくをお願いいたします。

## 2 質疑応答

令和5年度第2回みえ現場de県議会について

(質問) 今回この第2回の意見交換の場ですけれども、具体的に若者からどんな意見とか考えを聞きたいなというのはありますでしょうか。

(議長) そうですね。まず、副議長から答えていただいて。

(副議長) まず、皆さんに自己紹介も兼ねて、なぜ県内・県外への就職・進学を選んだのか。なぜ、県内・県外に就職・進学したのかということをお聞きし、そして、どんな三重県だったら住みたいのか、住み続けたいのかということをお聞きし、そのあと議員も一緒に、住み続けたい三重にしていくには、若者に選ばれ続ける三重県にしていくには、どんな施策が求められるかということの議論をしていきたいと思っております。

(質問) 前回、昨年11月伊勢市内で行われたみえ現場de県議会なんですけれども、その際の成果であったり、参加者の声もしくは県議会からの参加者の声があれば教えてください。

(副議長) 前回は公募を中心に23人の若者に参加をしていただいて、若者とこれからの地域づくりや若者の政治への関心を高めるにはどうしたらいいかということでお聞かせをいただきました。本当にさまざまな<sup>きたん</sup>忌憚ないご意見をいただきまして、全議員に書面でこんなことがありましたと報告をさせていただいておるのですけれども、今回、202号のみえ県議会だよりで一部紹介させていただいております。参加者からは、「メリットがないと動かない若者が多い。この先10年20年のビジョンなど、地域がいずれ盛り上がっていくというような未来に向けた話を学生に話した方が地元に残っていくと思う。」それから、

「議員が言う公約などはスケールが大きいもの多くて、自分には関係ないと思ってしまうので、小さなことでも吸い上げて議会で提案いただける機会があると良い。」というようなことを、今回の県議会だよりで報告させていただいているんですが、その時に、県の情報発信についてたくさんご意見いただきましたので、それを踏まえて、来年度、広報の紙面の作り方でありますとか、それからホームページなどについては検討していきたいと考えております。そういった形で反映をしてまいりたいと思っております。

(議長) 私からも、前回、人口が県内から流出している地域、流出が多い原因というか起因するところをいろんな観点でお聞きしたんですけど、今回は違うんですね。川越町は、転入転出の差が転入の方が多い。県内で一番転出が少ないと言ったほうがいいんですかね、言い方を変えますとね。ということは、若者が比較的県内でも川越町の地域は定着しているほう。定着されているという方に聞いて、三重県全体が転出が多いにも関わらず、川越町のこの出席者から、転出していない方、逆に転入された方に聞いて、その良い内容を聞くことによって、そうでないところの差を見たり、そういう狙いもあるということです。

(質問) もう1点、今おっしゃいました川越町は転入が多いところということですが、開催地の決定はダブらないように順番にすることがあるかと思うんですが、なぜ川越町になったのかというのを教えてください。

(議長) まずは副議長から。

(副議長) 未開催の市町であるということと、それから先ほど議長おっしゃいましたけれども、社会増減率の県内の市町を比べさせていただいたところ、川越町が増加率第1位で、10.6%の増加になっております。それから、第2位が朝日町で、6.6%なんです。なので川越町を選ばせていただいて、それから朝日町からも参加をいただく方がいらっしゃいます。なので、どちらかという先ほどの議長とも重なりますけれども、出て行く、出て行こうとしている方、それから今悩んでいる方もご参加いただくんですが、三重県を選ばれた方、特に川越町、朝日町に住んでおられる方が、なぜ三重県を選んだのか、ここを選んだのかという、そのあたりのところをお聞きして、施策に反映できたらなと考えて、今回は増えているところを選ばせていただきました。

(質問) ありがとうございます。

(議長) 私からも補足になりますけど、ずっと現場で県議会は広く、できる

だけやっていないところをやるということのほうがいいかなというか、県内全体のバランスを見て、まだ開催していない場所としてちょうど川越町がうまくフィットした形です。

(質問) 20歳から37歳までの10人というのは、どのように選ばれましたか。

(副議長) まず前は伊勢でやったので、皇學館大学にご協力いただいたのですが、今回は三重大から北の大学、専門学校に声をかけさせていただいたのが一つ。それから、川越町にお願いをして、どなたかご推薦いただけませんかということでお願いをさせていただきました。今回公募ではなくて、先ほどのテーマに沿った属性の方に来ていただきたいということがあって、そのような依頼の方法とさせていただいております。

(質問) 川越町の推薦でいらっしゃる方は10人のうち何人ですか。

(副議長) ちょっとごめんなさい、詳しいところちょっと事務局の方で。

(質問) 後で大丈夫です。そうすると、大学生および専門学校生については、ある意味では、今後転出する可能性もあるということですね。一方で川越町推薦の方というのは、今どういう状況にいらっしゃる方かということを知りたいです。

(副議長) 分かりました。二通りございます。三重でずっと育って川越町で就職をし住んでいるという方と、一度、県外の大学に出られてUターンで戻ってこられた方、という二通りございます。

(質問) 出身は別のところで、移り住まれた方というのは聞いてませんか。

(副議長) 今のところいらっしゃいます。お一人いらっしゃいますね。

(質問) 転入者の方もいるということですね。

(副議長) はい。

(質問) 20歳から37歳までというのは、私今ちょうど37歳なんですけど、別に関係ないんですけど、これは何かそういう年齢の条件で選んだというより

かは、若者ということで結果的にこの年齢になった感じ。

(副議長) これ理由があったんです。実は調査の区分がそうになっていたり。

(質問) 国勢調査か何かですか。

(副議長) 住民基本台帳人口移動報告の区分が、15歳から19歳、5歳刻みで35歳から39歳までということなので、募集としては、今回が39歳までとさせていただいて結果37歳ということになります。

(質問) 現場で県議会はこれで何回目になるんですかね。

(副議長) これ全体で何回になるんでしょうか。

(質問) 中止してるものもありますもんね。

(副議長) 平成22年度から始まっていて、22回目になるでしょうか。

(質問) 22回目。

(副議長) はい。

(質問) これは実際に行ったものですね。中止したのは除いて。

(副議長) すいません、1回中止しております。令和2年度に1回中止しておりますので、21回目です。

(質問) 21回ということですね。若者の人口流出をテーマに開くのは初めてですかね。同様のテーマで実施したこともありますか。

(副議長) 今までにもございます。流出というか、人口減少対策っていうことで、令和4年度にしております。

(質問) 令和元年度にも、県内定着の促進ということで、似たテーマでやっていますね。

(副議長) 令和元年度もやっています。それから、平成27年度にも地方創生と

人口減少対策ということでやっております。ただ今回は、どちらかというに住むことを選んだ人の声を聞くという、ちょっとそこにも少し焦点当てているので、この辺りは初めてかもしれません。

能登半島地震への義援金について

(質問) 先日の代表者会議で、能登半島地震の義援金の関係で、金額とか固まったと思うんですけど、今後のスケジュールとか、改めてその金額を決めた理由等ありましたらお願いいたします。

(議長) 能登半島の地震の対策につきましては、先月も記者会見で一部、当時のお話させていただきました。その後は、その時点では代表者会議を開いて、お諮りしながら決定していくと、正副に一任された部分があるということでお示しさせていただき、先日の代表者会議で正副から提案をさせていただきました。額について決定をさせていただきました。これは全国的な動向を見たり、近隣の状況も見ながら判断をさせていただきました。先日、決定させていただきました。石川県に50万円、富山県と新潟県にそれぞれ20万円、福井県に10万円、トータル100万円になります。これを決定させていただき、早速、当該県議会ならびに事務局にお持ちさせていただき、義援金をお渡しすることについて、事務局で調整をさせていただきまして、2月7日の日に石川県と福井県と富山県につきましては東京で、富山県については直接、富山県議長にお渡しするタイミングをとることができました。福井県と石川県につきましては、現地ということも想定があったんですけども、現在まだ受け入れはしてはいますが、行ってするといろいろと相手さまのことも思い、相手さまの意を尊重して、東京事務所で渡すこととさせていただきました。新潟県につきましては同じ日に新潟県議会へ直接お持ちして、議長さんに直接お渡しできる運びとなりました。1日で4県、時間調整をさせていただいて、もちろん金額を書いた目録でお渡す形になるかと思います。お渡しする際には、当然、現地の様子もお聞きしながら、被災状況、もうすでにデータとしてはあるんですけども、議会としての気持ちを交わしながら、さらなる支援の方法、いろんな情報をお聞きしたいなと思います。新潟県については現地ということもございますので、新潟県議会へ行くということもございますので、その機会を通して被災地の状況もお聞きしながら、現場を調査させていただき時間もとることができました。詳細についても、現地で報告を受けることも聞いております。そういう状況を見ながら、また我が三重県議会に情報を共有したいなと思っています。そういう手順でございます。

(質問) すべて議長プラス事務局の方々でっていう感じなんですかね。実際に

行かれるのは議長。

（議長）私が県議会代表でお持ちさせていただきたいと思います。なお、この義援金だけにお話特化しましたけれども、前回言いましたように、全国都道府県議会議長会の副会長をさせていただくのは、東海北陸ブロックで推挙された私という立場ですので、先月の26日に、石川県の焼田議長、富山県の山本議長、全国議長会の会長さん、福井県の西本議長さん、新潟県の楡井議長さん共々、国交副大臣、そして総務大臣、それから官房長官、それから自民党の政調会長さん、それから防災担当大臣のところへ、5か所と一緒に全国議長会として緊急要望という形で、全国議長会総会で決定した内容を直接要望させていただきました。

（質問）以上になります。ありがとうございました。

（議長）ちょっと事務局から補足を。

（事務局）事務局からの補足でございます。第2回現場d e 県議会の川越町さまから推薦いただいた方の人数は3名でございます。商工会関係等3名のご推薦をいただいております。以上でございます。

（議長）補足は以上ですね。よろしいですか、今の補足説明で。以上で終了させていただきます。ありがとうございました。

（ 以 上 ） 10時53分 終了